

# ノーモア・ヒバクシャ通信 第48号

2019年10月17日

ホームページ <http://www.kiokuisan.jp/>  
継承ブログ <http://keishoblog.com/>  
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>  
ツイッター <https://twitter.com/nomorehibakusha>

発行者  
NPO 法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会  
〒102-0085  
東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F  
Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)  
Email [hironaga8689@gmail.com](mailto:hironaga8689@gmail.com)  
郵便振替口座 00110-5-292881  
口座名義 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

## ★ もくじ ★

I. 会員を増やし、継承センター設立募金をすすめよう	1
II. 京都での「未来につなぐ被爆の記憶体験会」ご報告	3
III. 未来につなぐ被爆の記憶プロジェクトのご報告	3
IV. 夏休み親子企画「げんばくってな～に？」を開催しました	4
V. ならコープ「平和ライブラリー」開設記念講演会の報告	6
VI. 被爆者運動に学び合う学習懇談会＝シリーズ14＝のご案内	7
VII. すすむ被爆者運動史料を用いた研究・教育活動	
(1) 昭和女子大学「戦後史プロジェクト」2年目の秋桜祭展示へ	7
(2) 一橋大学大学院「1995年調査」自由記述回答の分析作業	8
VIII. 《関連行事》ヒロシマ連続講座で西村利信さんの「原爆体験記」を紹介	8
IX. 継承活動に取り組む人々をつなぐプロジェクトのご報告	(別冊)

台風19号の、これまでに経験したことのない豪雨と暴風が列島を襲い、各地に甚大な被害をもたらしており、会員の皆さまを含む被災地の方々に心よりお見舞い申し上げます。

## I. 会員を増やし、継承センター設立募金活動をすすめよう

今年度の上半期が過ぎましたが、諸活動の一層の推進をはかるとともに、それらを支える会員組織の拡充とセンター設立募金の推進を呼びかけます。

(1) 2020年、国連はNPT発効50年の記念すべき年を迎え、5月の再検討会議は核兵器禁止条約と核兵器の非人道性に関する論議の進展に、世界の注目が注がれることとなります。9月27日現在、すでに32カ国が同条約の批准書等を提出していますが、50カ国を超え条約発効を早期に実現しなければなりません。日本被団協が呼びかけた、核兵器の廃絶を求めるヒバクシャ国際署名は9月末現在、1,051万7,872人分に達しています。核兵器のない世界の実現に向けては、あらゆる機会を通じ原爆被害の実相と被爆者の原爆とのたたかいを世界の人々に知らせ続けることが、切実に求められています。

それらの記録を人類の記憶遺産として共有できるようにすることがとても重要です。その拠点が「ノーモア・ヒバクシャ継承センター」であり、東京から世界に発信できるようにその早期の設立をめざします。2020年7月21日(火)、日本青年館大ホールで、「(仮

称) 東京オリンピック記念 平和チャリティー・コンサート ノーモア・ヒバクシャの声を世界に」を開催し、センター設立を呼びかけます。また、2020年の適切な時期に、首都東京にある国連大学において、「原爆と人間展」の開催を追求します。東京オリンピックが開催されるこの年は、訪日する海外の人々が飛躍的に増大することが想定され、改めて国内外の人々に「ノーモア・ヒバクシャ」について共感、共有する機会を提供することははかりしれない貴重な意義を有すると考えます。原爆忌も75周年を迎えることになり、いよいよセンター設立が急がれます。

(2) 会員は現在、正会員(年会費1万円)141名、賛助会員(年会費1口千円)239名、賛助団体(年会費1口1万円)60団体です。会員の拡充は、当面、賛助団体を200団体以上に、賛助会員を500名以上にするために、取り組みを強めます。

この通信を読んでいたでいる皆さま、ぜひ身近な知人や諸団体にこの会に参加されるようお誘いくださることをお願いいたします。

「継承センター設立募金」は9月末現在、6,083,150円です。**だれでも募金**は一人500円以上。家庭、地域、職場、学園などで募金を呼びかけ、まとめてご寄付くださるようお願いいたします。広島のある学校では学校ぐるみで募金に取り組み、多額の寄付をしていただきました。今いる場で、みんなに気軽に呼びかけてみましょう。また、**力持ち募金**(団体・企業・個人1口10万円以上)もお願いいたします。認定NPO法人としての領収書を発行しますので、税額控除が可能です。ご活用ください。

それぞれ、郵便振替用紙に「賛助会員」「賛助団体」「寄附金」「継承センター設立募金」と明記し、下記の宛先にご送金ください。

(郵便振替) 口座番号: 00110-5-292881

加入者名: ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

※ 学校で募金を呼びかけた生徒さんにそのとりくみをレポートしていただきました。

### 募金を終えて

私はアイルランドに小学2年生から高校1年生の夏までの8年間住んでいました。アイルランドでは、原爆については広島と長崎に原爆が落とされたということのみ学び、深い知識を持っていませんでした。しかし、広島に引っ越してきてからは、ニュースや新聞などで原爆に関することを目にすることで、核兵器についてのニュースなども注意深く聞くようになりました。

今年の夏に、東京に住む私の父の叔父から「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」という団体が継承センターの設立を予定しており、募金を集めているという話を聞きました。アイルランドの学校では募金活動が頻繁におこなわれていたのですが、日本に帰国してから一度として学校で募金活動がなかったことに気づきました。大叔父の話を聞いた後、私の通っている学校で募金活動を行い、継承センターを宣伝できるのではと考えたため、募金活動を行おうと思いました。

この活動を実際に行うまでに、企画書を書き学校に提出し、許可をいただいたのち、先生方とどのように集めるのか、どのようにお金を管理するのか、そして懸念事項などについて話し合いました。私は、アイルランドの学校のように全校生徒に意識を持ってもらうような募金活動を行いたかったため、各クラスを回り、募金を集めるという方法を考えました。生徒会とも連携して活動を行いました。まず、全校朝会にて生徒と先生方に向けて5分程度の、継承センターと今回の募金活動についてのプレゼンテーションを行いました。また、保護者の方には今回の活動についての手紙を書き、学校の承認印をいただき、学内用の一斉メールで送付しました。回収日程のポスターも制作し、各クラスに先生方に貼っていただきました。それらの効果があったのか、私が予想していたよりもはるかに多くの生徒や先生方がご協力してくださりました。

今回のように私自身がなにかを企画し、学校で活動を行うというのは初めての試みであったためどのように進めていけばいいのか不安でしたが、担任と学校側のサポートのもと、無事終わることができました。この活動を通して継承センターについて知ったことで、生徒たちが原爆について考えるきっかけになればと思いました。私自身も、企画をする際に継承センターについて調べたことで、被爆者の方々の記憶や活動を私たちの世代に残していくことの大切さについて知り、継承センターの必要性を感じることができました。この継承センターが完成する日を心待ちにしております。  
(浜住夏帆)

## II. 京都での「未来につなぐ被爆の記憶体験会」報告

9月15日(日)に京都のコープ御所南ビルにおいて、「未来につなぐ被爆の記憶体験会 被爆者とともに語り継ぐ」の会が開かれました。主催団体は、特定非営利活動法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会で、共催団体は日本原水爆被害者団体協議会と日本生活協同組合連合会でした。

「未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト」は、被爆の実相を後世に伝えるために広く発信することを目的に、インターネットでの公開を活用した継承・発信の取り組みです。被爆者を中心に、学生や市民の参加者がグループに分かれて交流し、被爆体験の要約や参加者の感想などをインターネットの専用サイトに登録します。

京都では、京友会のお二人の被爆者(長崎被爆)にお話をさせていただきました。長い間被爆体験を話すことができななかったが、高齢になり若い世代に伝えないといけないと思うようになったというお話が印象的でした。若いボランティア・スタッフの方が中心になって会を進め、対話形式でお話を伺い、その後で参加者が感想を出し合いました。体験を語り継ぐ貴重な会になりました。  
(継承する会理事 山根和代)

## III. 未来につなぐ被爆の記憶プロジェクトのご報告

9月21日(土)、東京四谷プラザエフで、山根理事、岡山理事(以上web参加)、二村理事、吉田理事、被団協より濱住さん(事務局次長)・工藤さん(同事務局)、ボランティア・スタッフの中尾さん・並川さん・松本さん・田村さん、会事務局より伊藤・島村が参加しました。9月15日の京都体験会(前述に報告)などこれまでの取り組みについて

報告・交流をすすめ、今後の進め方を検討しました。

#### (1) 京都体験会について

当会が主催、日本生協連と日本被団協が共催で、この体験会に参加した山根理事およびボランティア・スタッフからそれぞれ感想が述べられ、その要旨は次の通りです。

##### 《山根理事》

とても充実した体験会で、松本さん、中尾さん、田村さん、並川さんが見事に運営され、深い感銘を受けました。(参加した)年齢の幅が、若者、中年、高齢者と様々で、お互いによかったのではないかと思います。今後、京都では(若い)ボランティア・スタッフの方をどうするかが課題です。また、生協の(交通アクセスが)便利な会議室、生協の関係者との交流もよかったと思います。

##### 《ボランティア・スタッフ》

・田村さん～(事前に)証言する被爆者の方と打ちあわせしたうえで当日を迎えられ、よかった。ファシリテーター(進行役)とは別にデータ登録の担当がいて、運営に集中することができた。

・並川さん～高校時代、ヒロシマ・アーカイブと一緒に取り組んだ友人3名が参加してくれた。「自分が登録した感想がどこに載るのかわかりにくい」「大学の勉強もある。ボランティアはどのくらい時間がかかるのか?」などと聞かれた。

・松本さん～一つのグループに二人の被爆者が参加していたが、メインの被爆者の方のお話が十分に聞けなかった。司会はうまくできたと思うが、ボランティア・スタッフの募集については考えていなかった。

・中尾さん～3回の京都行が大変だった。(事前の)打ち合わせ回数やボランティアの派遣人数は、各地の受け入れ団体(主催団体、被爆者団体など)がどのくらいできるかにかかっていると思う。被爆者の方は話すことが多く、(一度だけの)限られた時間で十分にお話を聞き、交流するのは難しい。

#### (2) 今後の開催予定について

今後の開催候補地については、神奈川など地元関係者と連絡調整し、また京都は第2回開催を検討していく。

(3) 独自サイトの開設については、岡山理事、田村氏(東大渡邊研究室関連会社)、伊藤事務局長が協議することとする。

同プロジェクトの次回打ち合わせは、11月16日(土)13:00～、東京四谷プラザエフを予定します。

## IV. 夏休み親子企画「げんばくってな～に?」を開催しました

8月24日(土)コーププラザ浦和で「夏休み親子企画 げんばくってな～に?」を開

催しました。参加者は全体で7名（うち親子は一組2名、大学生1名）のこじんまりとしたつどいでしたが、参加者ひとりひとりが服部道子さん（埼玉県原爆被害者協議会）の想いを受けとめ、これから何が出来るかを考える、とても充実した時間になりました。

クイズコーナーでクイズ形式により原爆について基本的なことを学んでもらってから、服部さんから「あの日」のことをお聞きしました。服部さんは16歳の時に広島で被爆、今年90歳です。会の最後に服部さんのお写真、体験記、参加者の感想を専用サイトに登録しました。この企画は「未来につなぐ被爆の記憶」プロジェクトの若いボランティア・スタッフのみなさんが企画・運営しました。



### 《参加者の感想》



#### ○教員志望の大学生

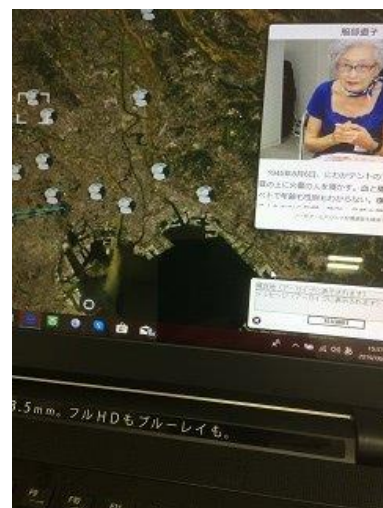
服部さんに「伝える方法は何でもいい」と言ってもらったことでこれからも諦めずに話を聞きに行ったり、伝承できるような活動をしていこうと思いました！自分なりの伝承の仕方を考えていきたいと思っています。

#### ○小4のお子さんと参加したお母さん

なかなか現代の子には想像し難いだろうなと感じていますが、服部さんの臨場感あるお話で、戦争はダメなことなんだと（まだ幼いのでざっくりではあるものの）感じたのではないかと思います。

#### ○ボランティア・スタッフ（20代）

被爆経験を話せない人たちがいるから、私はこうして話し続けるといってお話が強く印象に残っています。聞いた人たちには詩を作ったり、絵を描いたりしてほしい。表現や発信の仕方は限られていないんだと気づかされました。



#### ○ボランティア・スタッフ（20代）

当時に鮮明に思い出し、語るのは、心をすり減らす行為だと思います。それでも何故、服部さんが語ってくださるのか…戦争で、原爆で亡くなった方々の姿が、思いがいつまでもあるのだなと感じました。またお話を聞かせて頂きたいです。

## V. ならコープ「平和ライブラリー」開設記念講演会のご報告

ならコープ組織部（平和担当） 岡 英幸

10月6日（日）、「コープふれあいセンター六条」2階に被爆戦争体験を次世代に継承する「平和ライブラリー」を開設した。県内の個人や運動されている諸団体が持っている被爆・戦争体験資料を掘り起こし、記録し、その体験を将来にわたって継承するための活動の拠点とする。具体化として、1985年に結成され、現在は解散されている「わかくさの会（奈良県原爆被害者の会）」の活動記録や証言を語り継ぐ入谷方直氏と協力し、命の尊さ、戦争の悲惨さや残酷さなど平和について考える場としていく。



同日、同ライブラリー開設記念講演会として、「核兵器廃絶へ向けて被爆体験を学び、次世代へつなげよう」をテーマに開催し、55人が参加した。記念講演会では、日本被団協事務局次長 濱住治郎氏に「胎内被爆者としての体験、核兵器をめぐる情勢、被爆者運動のこれまでとこれから」についてお話しいただいた。



〔写真〕上：平和ライブラリーの展示風景

下：講演する濱住さん（左は入谷さん）

冒頭の挨拶で、ならコープ中野理事長は、「平和になること、核兵器をなくしていくことはたやすいことではありませんが、一人ひとりが考え、いろんな人と歩み続けることが大切で、そのことで道が開ける。そういう思いで、これからの活動を続けていきたい。45年にわたりならコープが続けてきた平和の記録をきちんと整理し、残していくことも大切で、その役割は大きい。この平和ライブラリーで何ができるかを考え、交流を大切にしながら継承活動をすすめていきたい。ぜひ、活動に参加してください」と呼びかけた。

濱住治郎さんからは、終戦後74年がたった今も、原爆の残虐さと放射能は今も被爆者を苦しめています。自分たちがどのように生きて、どんな影響があったかを知っていただきたい。自分たちは「子どもたちに戦争・核兵器のない青い空を残すこと」を使命に運動している。被爆者にとって核兵器、核の傘は青い空を突然襲った「キノコ雲」以外の何ものでもない。本当の青い空の下で、皆さま一人ひとりの夢や希望が実現できることを願って今後も運動を続ける、とお話しいただいた。

また、入谷方直さんの奈良県の被爆証言資料掘り起こし活動報告や2020年NPT（核兵器不拡散条約）再検討会議に代表派遣されるカーン陽子さん（ならコープ組合員代表）、宮本志音さん（奈良県生協連代表）の紹介と参加決意表明があった。

## VI. 被爆者運動に学び合う学習懇談会＝シリーズ14＝のご案内

前号に案内チラシを同封しご案内したとおり、シリーズ14回目の学習懇談会は10月26日（土）13：30～16：30、精神科医（本会副代表理事）の中澤正夫さんの問題提起で開催します。

テーマは、被爆＝「こころの被害」。会場は、立教大学池袋キャンパス7号館3階7302教室です。いつもと会場が異なりますので、ご注意ください。

なお、準備の都合上、必ず事前にお申し込みください（継承する会事務局宛）。

TEL/FAX 03-5216-7757 E-mail:hironaga8689@gmail.com

## VII. すすむ被爆者運動史料を用いた研究・教育活動

### （1）昭和女子大学「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」

昭和女子大学の「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」、2年目の今年は新メンバーを加えた13人。夏休みを利用した運動史料の整理作業を7日間、のべ26人で行いました。今回は、愛宕事務所で相談事業関係の資料や被爆70年、被団協結成60年関連の資料を整理するとともに、南浦和の資料庫で寄贈書籍のラベル貼りや、電子化作業のために以前整理した史料のホチキス・金属の綴じ具をはずすなど、地味な作業も手伝っていただきました。プロジェクトメンバーの他に、卒業研究のため夏休みにインドに資料集めに行ってきた環境デザイン学科の4年生や、1年間のドイツ留学から帰国した学習院大学の4年生も参加され、それぞれの経験を交流しながらの作業になりました。

また、相談所の資料のなかから、奈良のわかくさの会が1985年に再建された際のファイルが出てきて、奈良の平和ライブラリーにそのデータを提供することもできました。

### 《「秋桜祭」で2年目の展示—11月9、10日》

同プロジェクトでは夏休み中に、秋の文化祭展示をめざして史料研究を重ねながら、3人の被爆者（濱住治郎さん、吉田一人さん、岩佐幹三さん）への聞きとりも行ってきました。

今年のテーマは、去年の「被爆者に『なる』」展の続編となる「被爆者に『なる』～victimsと背中合わせの survivors～」(仮題)。去年の問題関心であった被爆者の主体的形成という論点はそのままに、被爆者たちが死者の存在を意識しながら生きてきたことにも注目しつつ、具体的には1980年前後の日本被団協の調査事業を牽引してきた一人である、岩佐幹三さんの活動に注目して展示する予定です。

ぜひ多数、ご覧くださいませようご案内申し上げます。

◆ 日 程：11月9日（土）、10日（日） 10:00～16:00

◆ 場 所：昭和女子大学 1号館 3S03 教室

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7-57

東急田園都市線（半蔵門線直通）「三軒茶屋」駅下車 徒歩7分

## (2) 一橋大学大学院で「1995年原爆被害者調査」自由記述回答の分析作業

被爆者対策の現行法「原爆被爆者に対する援護に関する法律」が制定された翌年、1995年に、日本被団協は「原爆被害者調査」を実施しました。その選択肢回答についてはすでに中間報告書が発行されていますが、この法律や今後の被爆者運動についての自由記述回答は未着手のまま残されていました。

今年度、根本雅也さん（日本学術振興会特別研究員（PD）・立命館大学衣笠総合研究機構プロジェクト研究員）が担当する一橋大学の大学院科目「平和の思想」の一環として、この回答の整理分析にとりくんでいます。書かれた原爆被爆者の声に向き合い、「平和の思想」を紡ぐことをめざしたこの授業には、12人も大学院生（博士課程院生8名、修士課程院生4名）が参加。恰好の「継承」の場ともなっています。

3グループに分かれて討議を重ね、間もなくまとめられる報告書は70ページを超える大部になる見込み。詳細は、継承する会の「被爆者運動に学び合う学習懇談会」シリーズ15（来年1月17日（土）、プラザエフ5階会議室）で報告いただく予定です。

## VIII. 《関連行事》ヒロシマ連続講座で西村利信さんの「原爆体験記」を紹介

去る10月5日（土）、第85回ヒロシマ連続講座（企画：竹内良男さん）にて、西村利信「原爆体験記」をご紹介させていただきました。

俳優・語り手であります岡崎弥保さんの朗読と重ねながら、手記に込められた義父の葛藤や、70年間語ることの出来なかった心境などを、さまざまな角度から参加者の皆様と共有させていただきました。また、義父の妹でありますヨシコさん（当時8歳）より原爆投下直後の自宅の状況や、瀕死の兄弟の様子などを涙ながらに語っていただきました。

手記が私（義娘）に渡され、義父が亡くなるまで共に駆け抜けた9か月間の短い日々を振り返りながら、公表前と公表後の心の変化などもお伝えしました。

参加者の皆様には、「原爆体験記」の原本を手にとって見ていただき、人知れず長年保管されていた貴重な手記であり、原爆投下から4年後に高校2年生が書いた鮮明な記憶が、西村利信さんと関わりのあった方の朗読と、その文章に込められた真相説明により、とても身近に感じることができました、との感想をいただきました。

今後私達は、「広島悲劇を繰り返すな」と記した義父の願いを強く受け止めて、これからも継承活動を続けていきたいと思っております。

なお、原本は、寄贈先でありますノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会様のご厚意により、一時的に持ち出しを許可していただきました。

ご協力を頂いた皆様にお礼申し上げます。参加者の皆様、ありがとうございました。

（西村 桂子）

## IX. 継承活動に取り組む人々をつなぐPJのご報告

別冊で同梱しています。ご覧ください。